

令和5年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名 **英語** 科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割以上の生徒が授業に集中して取り組み、7割の生徒が積極的に参加している。 ○ 約6割の生徒が基礎的な知識・技能を身に付けているが、一方ですでに苦戦している生徒もいる。 ○ 英語を話すことや自己表現の活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 教科書本文の予習やワーク等の定期的な宿題には8割程度の生徒が取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割程度の生徒が授業に集中して取り組んでいるが、挙手したり発言したりする生徒は4割程度にとどまっている。 ○ 7割程度の生徒が授業内容を理解している。 ○ 授業中の発音・音読をしっかり行っているが、1年時と比べて自ら積極的に行う人数は減少傾向にある。 ○ テストなどに向けた家庭学習や宿題の実施に関して、まだまだ自主学習が定着していない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割以上の生徒が授業に集中して取り組んでいる。 ○ 授業への積極性は積極的に取り組むことができた生徒が5割、できなかった生徒が5割である。 ○ 単元ごとに取り組んでいる確認テストには意欲的に取り組んでいるが、家庭学習に取り組んでいる生徒が少ない。 ○ 自己表現活動では、書くことも話すことも意欲的に取り組む。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項、特に基礎的な文法や表現を、生徒が整理し、活用できるように定着させる必要がある。 ○ 生徒にとって実用的な場面で英語を活用することで、思考力・判断力・表現力を身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が挙手や発言をしやすい授業づくりを行う必要がある。 ○ 教科書を教える授業ではなく、教科書を活用して広い視野で英語を活用していく場面を意識させた授業や雰囲気づくりをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確認テストのみでなく、習得した知識をアウトプットする活動や時間を十分に確保する必要がある。 ○ 英語を発音することや発言をすることなどに少し抵抗が見られたため、間違えを恐れずに発言できる雰囲気づくりをする必要がある。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○ 週に1回、語句の小テストを行い、基礎・基本の定着を図る。また既習事項を授業の中で繰り返し使用する。 ○ リスニングやスピーキングを帯活動として行い、総合的な英語の力を身に付けさせる。 ○ 思考力・判断力・表現力を高めるために、生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う工夫をする。 ○ 家庭学習の課題は明確に定期的に出すことを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアワークやグループワーク、ICTを活用した授業づくりを行っていく。教師主導の授業ではなく、生徒主体の授業を実施できるよう教材研究を行っていく。 ○ 受験学年を見据え、家庭学習の方法が分からない生徒へのフォローアップを丁寧に行う。教員がいないときにも学び続けることができるような指導の工夫を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語材料を十分に理解し、教材作りはスモールステップを意識し研究する。 ○ 帯活動で前時の復習を行い知識の定着を意識しつつ、リスニングやスピーキング活動も行うことで総合的な英語の力を身に付けさせたい。 ○ 家庭学習の定着のために明確に課題を提示し、生徒にアドバイスすることを心がける。 ○ 生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う研究と工夫をする。

